

# 坂越略式年表

この年表は史実だけではなく伝承の事柄を含む

西暦	年号	事柄
古墳時代	5世紀中頃	小島の山に海人豪族の墓が数基築造される。(みかんのへた山古墳)
593年	推古天皇元年	聖徳太子摂政
603年	推古天皇11年	秦河勝 蜂岡寺(広隆寺)創建
644年	皇極天皇3年	秦河勝 蘇我の入鹿の乱を避け坂越に流れ着く
645年	大化元年	大化の改新
647年	大化3年	秦河勝没す 生島に葬られる
672年	弘文天皇元年	壬申の乱
701年	大宝元年	大宝律令
710年	和銅3年	平城京遷都
743年	天平15年	墾田永世私財法
756年	勝宝8年	赤穂郡坂越郷の墾生山(ハブ山)東大寺へ勅により献納される。
793年	延暦12年	東大寺文書に赤穂群坂越郷として名前が載る
794年	延暦13年	平安京遷都
807年	大同2年	空海が中国からの帰途の途中 坂越に立ち寄る。
901年	延喜元年	菅原道真太宰府の任に向かう途中、坂越に泊まる。
939年	天慶2年	平将門 藤原純友の乱
1045年	寛徳2年	荘園整理令
1055年	天喜3年	秦河勝に正二位を授けられる。
1068年	治暦4年	秦河勝に正一位が贈られ大荒神社を大避神社とあらためる。
1147年	久安3年	東大寺その領地中播磨国垂水荘、赤穂荘、栗生荘の三カ荘に替える に播磨国大部荘をもってす。
1154年	仁平4年	播磨坂越、大江嶋の二荘藤原教長の知行に改定せらる。

1156年	保元元年	保元の乱
1159年	平治元年	平治の乱
1182年	養和元年	大避神社は播磨の国総社縁起によれば祭神中太神24座に列せられ 当時すでに有力な神社であったと記されている。
1185年	文治元年	屋島・壇ノ浦の戦い 守護 地頭の設置
1190年	建久元年	城三郎重末 矢野莊是藤名を祖先より相伝し坂越の海賊になるをもって守護に誅伐される。
1192年	建久3年	鎌倉幕府開設
1221年	承久3年	承久の乱
1232年	貞永元年	御成敗式目
1253年	建長5年	近衛家領目録に坂越莊記録あり
1274年	文永11年	文永の役
1297年	永仁5年	永仁徳政令
1313年	正和2年	寺田法念の子範兼、大避宮別当神主、祝師職、坂越莊浦分堤木津畠二町地頭をその子範長に譲る。
1315年	正和4年	寺田法念近隣の土豪と語らい、数百人をもって坂越莊を侵略狼藉する。
1317年	文保元年	高屋権現赤穂群大領(郡司)として赴任
1324年	正中元年	京都東福寺の溪深首座により常楽寺開基
1326年	建武2年	寺田法年の余党、真殿源太入道、越後房等蜂起し、東寺より南端殿、阿波津師房等派遣され、大避山に城を構え戦う。実円、信阿等の名主、城中へ兵糧を運び東寺方の為に尽くす。
1331年	元弘元年	元弘の乱
1333年	正慶2年	赤松円心挙兵
1336年	建武3年	児島高德、三石より坂越浦に来たり 妙見寺にて身を養う
1365年	正平20年	児島高德、妙見寺で没す
1392年	明德3年	後醍醐天皇 隠岐の島に流され 南北朝合一
1441年	嘉吉元年	嘉吉の乱 赤松下野守性忠大避大明神に大般若経を奉納
1467年	応仁元年	応仁 文明の乱始まる
1485年	文明17年	赤松氏の乱で宝珠山16坊焼失するが 本堂 護法堂 成就坊 谷の坊 龍泉坊 三つ草庵は残った

1490年	延徳2年	坂越荘の中村義祐 永応寺を開基
1494年	明応3年	妙見寺再建を乗畔和尚が中興
1497年	明応6年	妙見寺中興開山の乗畔和尚没す
1532年	享禄5年	学西 妙道寺を開基
1536年	天文5年	信受院証如上人御真筆の開基裏書の一軸を妙道寺に賜う。妙見寺中岡坊の鐘を妙道寺乞い請ける。
1565年	永禄8年	宣教師フロイスらが堺への途中 坂越に10日ほど滞在
1568年	永禄11年	織田信長入京
1582年	天正10年	本能寺の変 太閤検地始まる。
1587年	天正15年	熊本藩主細川幽齋 九州よりの帰途 坂越に泊まる。
1588年	天正16年	坂越 相生と山境論争
1595年	文禄4年	播磨地方で太閤検地始まる。
1600年	慶長5年	関ヶ原の戦い 池田輝政 播磨一国を支配。
1601年	慶長6年	妙見寺の僧隆怪 常楽寺縁記記録を作る。 奥藤氏酒づくりを始める。
1603年	慶長8年	江戸幕府開設
1613年	慶長18年	赤穂群 岡山藩池田忠継領になる。
1615年	元和元年	池田正綱 赤穂藩成立 坂越でイナ座結成
1618年	元和4年	坂越で大火。妙道寺回禄
1619年	元和5年	九郎右衛門 庄兵衛 五郎兵衛 善助 忠左右衛門 久三郎ら 漁労のため長崎大浦に移住。妙道寺道場建立
1629年	寛永6年	妙道寺二世正意没す
1631年	寛永8年	池田輝興、赤穂に入封
1632年	寛永9年	高砂沖で漁網により引き揚げられた阿弥陀仏像を妙道寺に安置する。
1635年	寛永12年	参勤交代制始まる。
1637年	寛永14年	大避神社 頭人記録の始まり
1639年	寛永16年	与七郎の一族16戸が伊予の国青島へ移住
1643年	寛永20年	大避神社再建

1645年	正保2年	太玉五郎右衛門と網子22人が長門国油谷へ移住 秦河勝公一千年祭執行。浅野長直赤穂に入封。
1649年	慶安2年	赤穂城築城始まる。
1650年	慶安3年	妙道寺三世正齊没す
1651年	慶安4年	慶安の変
1652年	承応元年	赤穂藩 山鹿素行を召し抱える。
1654年	承応3年	山鹿素行、坂越浦に遊ぶ
1655年	明歴元年	治左右衛門、史郎右衛門、伊予国長浜青島へ浪人、大避大明神を勧請、家数二百氏子となる。
1657年	明歴3年	明歴の大火
1659年	万治2年	宝珠山山腹に妙見寺観音堂を建立。教興院良如上人の免許にて妙道寺の寺号を賜う。
1661年	寛文元年	赤穂城落城
1664年	寛文4年	妙見寺 東寺金勝院末となり大避大明神兼帯となる。
1666年	寛文6年	山鹿素行、赤穂に配流
1673年	延宝元年	妙道寺4世玄知退寺 舟壇尻始まる。
1675年	延宝3年	看坊誓閑妙道寺に釣り鐘を寄進
1676年	延宝4年	妙道寺表門を建立
1677年	延宝5年	妙道寺5世誓閑没す
1682年	天和2年	卜部朝臣兼連大避大明神縁起を作る。
1687年	貞享4年	生類憐れみの令
1689年	元禄2年	妙道寺「国絹袈裟」任官、施主奥藤助兵衛利久、専恵の代
1692年	元禄5年	薬師堂建立 高屋に火葬場移設、妙道寺庫裏客殿修復
1693年	元禄6年	高谷の火葬場に六地藏石仏安置
1695年	元禄8年	妙見寺獨空「貝縁記」をつくる。坂越と尾崎で山境論争
1697年	元禄10年	妙道寺お堂修復
1698年	元禄11年	鳥井坂の火葬場に石地藏座像を安置
1700年	元禄13年	妙道寺六世専恵没す

1701年	元禄14年	浅野長矩、吉良義央を殿中で刃傷
1702年	元禄15年	赤穂浪士討ち入り、永井直敬赤穂に入封。
1703年	元禄16年	赤穂四十六士切腹
1705年	宝永2年	妙道寺屋根裏修復
1706年	宝永3年	森長直赤穂に封入
1715年	正徳5年	尾崎八幡宮と氏子に関し係争
1716年	享保元年	対馬藩の領地肥前田代の米輸送(坂越廻船)、享保の改革
1719年	享保4年	生島の御旅所を再建
1721年	享保6年	鳥井の地藏堂建立
1722年	享保7年	妙見寺観音堂を龍泉坊跡地に移築
1728年	享保13年	妙道寺七世恵深没す
1731年	享保16年	高谷火葬場拡張、西浜、汐見浜、鳥井坂の三カ所を廃止。
1733年	享保18年	妙道寺再建着手
1734年	享保19年	妙道寺上棟
1736年	元文元年	生島の船倉を建立
1746年	延享3年	大避神社拝殿 神間再建、秦河勝千年忌取越執行
1747年	延享4年	赤松滄洲藩儒となる。
1767年	明和4年	大避神社再建着手
1769年	明和6年	大避神社再建落成
1770年	明和7年	常楽寺観音堂を大西源十郎吉寿が再建
1771年	明和8年	常楽寺供物所を再建、天満宮拝殿再建、参道、石垣を大西源十郎吉寿が修復
1773年	安永2年	妙道寺自庵となる。
1776年	安永5年	妙道寺釣り鐘を作り妙見寺へ譲る。
1783年	天明3年	天明の飢饉、火葬場に阿弥陀像建立
1787年	天明7年	寛政の改革

1788年	天明8年	司馬江漢坂越浦に遊ぶ
1789年	天明9年	赤松滄洲、児島高德の墓碑銘を識す。
1805年	文化2年	伊能忠敬測量のため坂越へ来る。
1809年	文化6年	尾崎、坂越両村係争地丸山の境界確定
1810年	文化7年	黒崎に他所三昧を築く
1823年	文政6年	千種川に亀の甲を設置
1831年	天保2年	坂越浦会所建築
1833年	天保4年	天保の飢饉
1834年	天保5年	大避神社宮の前の松が倒れ鳥居を損なう。弘法大師尊念忌で賑わう
1835年	天保6年	大避神社鳥居再建
1841年	天保12年	天保の改革 妙見寺で大般若経御供え米袋始まる。
1845年	弘化2年	秦河勝弘千二百年祭で賑わう
1854年	安政元年	大地震により赤穂近在は大被害
1856年	安政3年	生島に稲荷の仮堂を建立
1857年	安政4年	暴風雨のため町中で被害 絵馬堂倒壊 生島樹林帯も甚大な被害
1858年	安政5年	光塩丸難船となりフィリピンにたどり着く 安政の大獄
1860年	万延元年	光塩丸舟子無事帰国する。
1867年	慶応3年	大政奉還